



ほむる

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
 (カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
 【今月の一冊】 覚悟の磨き方 超訳 吉田松陰
 池田貴将 編訳 サンクチュアリ出版
 ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2014年7月1日 Vol. 141
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 代表取締役 渡邊 敏徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
 TEL 0554-67-8006 FAX 0554-22-2859

平和

外務省の「インドにおける対日世論調査」において、「日本はどのような国だと思いますか？」の中で、1位は「先進技術を有する国」、2位は「平和を愛する国」、3位は「経済力のある国」と続くそうです。また、2014年3月 ASEAN(東南アジア諸国連合)の世論調査において、最も信頼できる国は？日本(33%)、アメリカ(16%)、英国(6%)、オーストラリア(5%)、中国(5%)と日本への信頼が高いことがわかりました。

今、『集団的自衛権』の容認や『憲法改正』の話が議論されていますが、アメリカのニューヨークタイムス(5月5日)においては「戦後の平和主義から日本を引き離す大きな一歩となるかもしれない」と。

また、6月フランスのパリにおいて、「武器などの防衛セキュリティー国際見本市」に日本のブースが初めて本格的に登場しました。「武器輸出三原則」のもとこれまでは出展を控えてきました。今年4月に「防衛装備移転三原則」を閣議決定したことにより、武器輸出が可能になりました。フランスの新聞リベラシオン(6月12日)は「新たな武器輸出国・日本」「日本は静かにやってきた」と掲載されました。



戦争を体験していない世代の私達には、当たり前にある“平和”が、どんなに重要なことかなかなか実感としてわかりません。

平和であることを背景に、他国に対して暴力的な存在にならない日本人の姿が一番の防衛になっているとも言えます。しかし、日本を取り巻く隣国の環境は、日に日に変わっていることも事実です。来年は戦後70年になります。日本の“平和”を誰が守るのか？国民一人一人が真剣に考える時期に来ているのではないのでしょうか…。

【覚悟の磨き方 超訳 吉田松陰】 今月の一冊

幕末を駆け抜けた思想家、吉田松陰。松陰が現代に生きていたら説いていたかもしれない「後悔しない生き方」について書かれた176の短文。「心、志、士、友、知、死」からなる人生哲学が分かりやすい言葉で綴られています。

青いごみ袋

世界最大のスポーツイベント“サッカー・ワールドカップブラジル大会”が開催されています。残念ながら日本は予選で敗退してしまいましたが、決勝トーナメントが始まり、熱戦が繰り広げられています。

そんな中で、日本が注目を浴びたことがあります。初戦のコートジボワール戦、ギリシャ戦後、日本のサポーターが観客席に残ったごみを拾い集めていたのです。青いごみ袋は、応援の際に膨らませて掲げていたものでした。地元紙フォーリャ・デ・サンパウロ(電子版)は「試合には負けたが、礼儀正しさと高得点を挙げた」と報じ、英紙インディペンデント(同)は「他国のサッカーファンに衝撃を与えた」と伝え、韓国や中国でも称賛された。W杯を含め海外のサッカーの試合では、敗れたチームのサポーターが暴れたり、喧嘩をしたりすることがたびたび起きます。こうした行動は、他の国の人たちには大きな驚きを与えました。

東日本大震災の際にも、日本人の秩序ある行動は世界的に称賛されました。私たち日本人の持っている世界に誇れるもののひとつです。

今回注目を浴びているゴミ拾いですが、実は日本が初めて出場した20世紀最後のワールドカップ、1998年のフランス大会から日本のサポーターのみなさんが続けているものです。



◇おやつが脳を活性化する？

「仕事場でおやつを食べる」行為についてみなさんはどう考えますか。ビジネスパーソン400人に「ビジネスタイムの中でおやつを食べる頻度」に対し、「毎日」と回答した人が35.8%、「週に4回」が12.7%という調査結果がでました。「仕事場におやつを食べたおかげで、アイデアやひらめきが生まれたことがある」と回答した人が41.2%でした。「オフィスおやつ」を試してみたいかがでしょうか。